



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

しらこぼと

2007.8

No. 280

日本野鳥の会 埼玉県支部

S H I R A K O B A T O

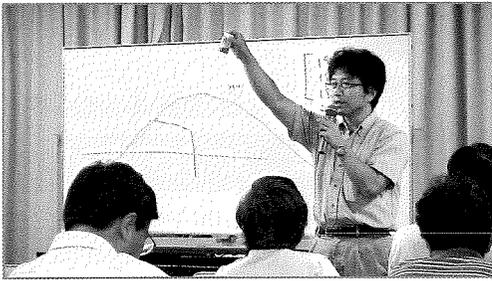


平成 19 年度(第 23 回)支部総会を開催

平成 19 年 6 月 24 日(日)午後 1 時 30 分から、さいたま市民会館うらわで、支部総会を開催しました。

●記念講演

長野誠治の司会で始まり、記念講演は、本部サンクチュアリ室の山本裕氏(下写真)の「三宅島 2000 年噴火からの自然の回復と野鳥たち」。2001 年度の支部総会と本誌同年 10 月号で、噴火間もない三宅島の鳥たちを語ってくれた同氏が、それからの変化について講演しました。



●議長など

藤掛保司支部長の開会の挨拶で総会が始まり、田辺八州雄が議長に、浅見徹が書記、大坂幸男・福井恒人が議事録署名人に選出されて、議事に入りました。

●18 年度事業報告と 19 年度事業計画(案)

海老原美夫事務局担当副支部長が、平成 18 年度に実施した事業について説明し、各部長がそれぞれ補足説明をしました。主な部分は次の通りです。

【総務・事務局関係】

会員の増加を 18 年度の重点目標のひとつとしたが、57 人減少した。第 30 回関東ブロック協議会を主催した。

【保護活動関係】

18 年度の重点目標のもうひとつとして「渡良瀬遊水池をラムサール条約登録地に」署名運動に協力した。第 60 回全国野鳥保護の集いで、福井恒人の長年にわたる鳥獣保護員とし

の活動が認められ、環境省自然環境局長賞を受賞した。関東地方で初めて繁殖が確認されたシロハラクイナの保護活動をした。マンション建設現場のコアジサシコロニーの保護活動をした。

【普及活動関係】

普及部(部長:橋口長和)が担当した探鳥会は、計画 118 回、雨天中止 11 回、実施 107 回=1 ヶ月平均 8.9 回、合計参加者数 4,736 人=1 回平均 44.3 人に及んだ。その他、学校などで 9 件 14 回にわたり普及活動をした。

【調査研究関係】

研究部(部長:小荷田行男)は、タカの渡り、カモ・ハクチョウ類、シギ・チドリ類、県内野鳥分布調査を継続した。

記録委員会(委員長:小林みどり)は、1 種を初確認として記録し、県野鳥チェックリスト 2006 年版を発行した。

【編集活動関係】

編集部(部長:山部直喜)は、『しらこぼと』を年 12 回、合計 25,200 部発行した。

【事業活動関係】

事業部(部長:福井恒人)は目標売上額を上回った。

引き続き、19 年度を会員増加 3 ヶ年計画の 2 年目として、前年度に達成できなかった年度内会員数減少ゼロを目指す、などとした 19 年度事業計画(案)が説明され、一括承認されました。

●18 年度決算と 19 年度予算(案)

18 年度決算について、仮払金というのは、普及部費用と編集部費用を予算額そのまま仮払金として一時支出し、次の年度で清算しているものであること、振替未了金は、事業部の売上金を一般会計の口座で受領し、年度内に振替できなかった分で、19 年度で既に振替済みであることなどを事務局担当が説明しました。石川敏男・楠見邦博両監事が監査結果を報告した後、19 年度予算案について説明があり、一括承認されました。

●19年度役員

長島宏之から役員退任の申し出があり、前年度役員のうち38名を再任、新たに青木正俊・持丸順彰・山口芳邦の3名を新任として推薦する案が承認されました。新役員の挨拶の後、総会を一時中断して19年度役員による最初の役員会を同じ場所で開催、支部長・副支部長・監事を前年度と同じく選出することが議決されました。

〔支部長〕 藤掛保司(川越市)

〔副支部長〕 海老原美夫(さいたま市)

〔幹事〕 青木正俊(さいたま市) 浅見徹(さいたま市) 新井巖(深谷市) 石井智(鴻巣市) 石光章(所沢市) 伊藤芳晴(川口市) 井上幹男(長瀨町) 内田孝男(古河市) 榎本秀和(鴻巣市) 大坂幸男(上尾市) 大澤祐(深谷市) 北川慎一(本庄市) 喜多峻次(小川町) 工藤洋三(さいたま市) 倉林宗太郎(さいたま市) 小池一男(寄居町) 後藤康夫(嵐山町) 小荷田行男(さいたま市) 小林みどり(大和市) 佐久間博文(川越市) 島田恵司(鴻巣市) 杉本秀樹(習志野市) 田中幸男(蓮田市) 田邊八州雄(越谷市) 玉井正晴(蓮田市) 手塚正義(川口市) 内藤義雄(鴻巣市) 中里裕一(騎西町) 中島康夫(蓮田市) 長野誠治(さいたま市) 橋口長和(春日部市) 長谷部謙二(川越市) 菱沼一充(白岡町) 福井恒人(さいたま市) 持丸順彰(志木市) 山口芳邦(新座市) 山部直喜(三郷市)

〔監事〕 石川敏男(春日部市) 楠見邦博(さいたま市)

日本野鳥の会埼玉支部18年度決算・19年度予算

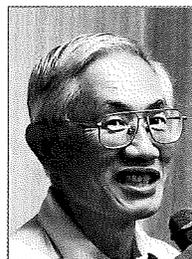
収入の部	項目	18年度決算	19年度予算
一般会計	期首繰越金	4,391,599	3,994,541
	会費	3,390,300	3,400,000
	寄付金	34,299	20,000
	探鳥会参加費	310,417	300,000
	雑収入	4,764	10,000
	補助金	200,000	200,000
	仮払い金清算	45,648	0
	振替未了金	110,492	0
	一般会計合計	8,487,519	7,924,541
事業部会計	期首繰越金	1,762,609	1,800,181
	運営準備積立金	5,000,000	5,000,000
	事業部売上金	827,162	700,000
	事業部雑収入	3,234	2,000
	振替未了金	0	110,492
	事業部会計合計	7,593,005	7,612,673
総合計		16,080,524	15,537,214

支出の部	項目	18年度決算	19年度予算
一般会計	什器備品費	1,523	100,000
	消耗品費	15,357	20,000
	支部報印刷費	1,256,844	1,300,000
	支部報発送料	928,296	940,000
	印刷コピー代	224,511	230,000
	通信費	120,093	150,000
	雑費	128,118	130,000
	家賃	1,066,000	1,000,000
	水道光熱費	52,461	60,000
	総務部費用	32,690	130,000
	普及部費用	190,412	220,000
	編集部費用	50,000	50,000
	研究部費用	7,140	30,000
	関東ブロッコ協議会会議費	389,945	0
	予備費	0	500,000
	仮払金残	29,588	0
	振替未了金	0	110,492
期末繰越金	3,994,541	2,954,049	
	一般会計合計	8,487,519	7,924,541
事業部会計	事業部仕入れ金	680,652	600,000
	雑費	1,680	5,000
	運営準備積立金	5,000,000	5,000,000
	振替未了金	110,492	0
	期末繰越金	1,800,181	2,007,673
	事業部会計合計	7,593,005	7,612,673
総合計		16,080,524	15,537,214

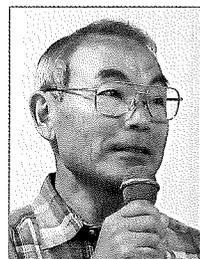
新役員



青木正俊



持丸順彰



山口芳邦

2007年春 シギ・チドリ類調査報告

日本野鳥の会埼玉県支部研究部

日時：2007年4月29日 9:30~11:15

場所：さいたま市西区/桜区大久保農耕地
天候：快晴

当日は東シナ海の高気圧がゆるやかに本州を覆っていたため、関東地方は晴れました。連休の中日にもかかわらず、支部会員14名のご協力が得られました。ありがとうございます。

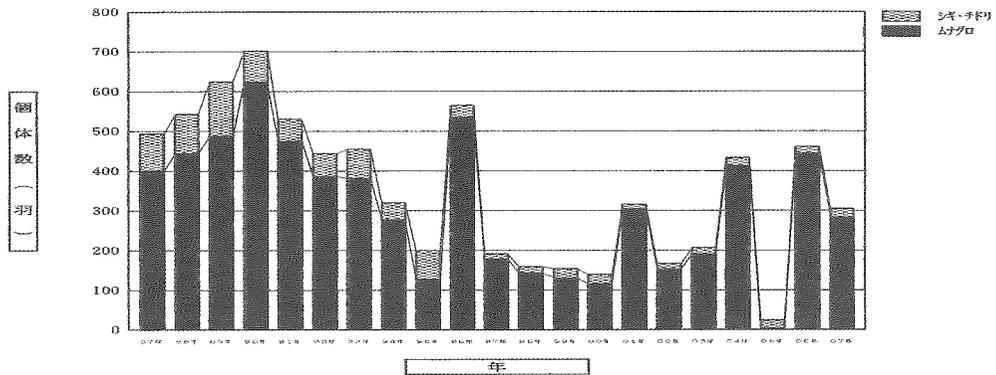
観察された種数・個体数は5種304羽で、昨年春と比較すると2種156羽少なくなり

ました。個体数の減少は、昨年に比べるとムナグロが161羽少なかったことが大きく影響しています。また、今回の調査では、ムナグロがA区B区では観察されず、ほとんどがAs区で観察されました。

グラフは大久保農耕地におけるムナグロとそれ以外のシギ・チドリ類の個体数を、表は今までのカウント結果をまとめたものです。

(石井 智)

ムナグロとそれ以外のシギ・チドリ類



春のカウント結果 (大久保農耕地)

年	1987	1988	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	合計
調査日	4/29	4/29	4/29	4/29	4/29	4/29	4/29	4/29	4/29	4/29	4/29	4/29	4/29	4/29	4/29	4/29	4/29	4/29	4/29	4/29	4/29	
天候	晴れ	雨	晴れ	曇り	雨	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	快晴	快晴	曇り	晴れ	曇り	晴れ	晴れ	快晴	快晴	曇り	快晴	
1 タマシギ				2																		2
2 コチドリ		5	1	2	1	1	4		7	1		1	2	5	2	6	9	4	4	2	6	63
3 シロチドリ				1																		1
4 ムナグロ	400	444	488	624	474	398	381	277	127	534	178	143	130	115	304	153	180	413	3	444	283	6491
5 ケリ																1						1
6 キョウジョシギ		3	7	2	2				2	1		2	4		2	1		1		3		30
7 トウネン				1																		1
8 ウズラシギ		2		2		1	1															6
9 ハマシギ		2		10	30		24	1		9												76
10 アオアシシギ				4	2	1	7	3					7								2	27
11 タカブシギ		50	52	69	16	4	6	6	13	25	5		1	5	2	1	1	6				262
12 キアシシギ		2			3							2	1					2		1		11
13 イソシギ		2		1								1					1					5
14 オグロシギ					1																	1
15 チュウシャクシギ		12	6	7	8	3	1	13	12	11	3	10	2	5	11	4	2	3	6	3	5	133
16 コシャクシギ					1																	1
17 タシギ		14	30	39	11	43	36	21	10	26	12	3	6	3	3		1	2		13	3	284
18 オオジシギ															1	1						2
シギ類		1	1			3	2	1	2			1										11
19 アカエトアシギ				1																		1
シギ類						5																5
合計	483	542	624	701	528	443	454	319	199	564	191	156	153	139	315	166	206	432	23	460	304	7414

三宅島を詠む

石光 章（所沢市）

鳥を題材に短歌を詠み始めて2年足らず。試しに応募した愚作が『野鳥』誌に採用されたのが運の尽きで、目ざとい編集長から「三宅島で3首詠んで来てください！」との厳命が…。

重い“宿題”は、往きの船中懇親会の楽しい盛り上がりでまず1首解決。

「鳥見んと集える仲間楽しかり

鳥を見ずして心華やぐ」

天候に恵まれた三宅島は、去年より更に緑が戻っている感じがして、鳥の声も一段と元気に聴こえた。

「火の山の怒り静まり命満つ

噴火後七年固有種元気」

帰りの航路では、オオミズナギドリが絶え間無く飛び続けていた。こんなに大量のオオナギを見たことはかつてなく、しばし見とれてしまった。

「海と空二つの蒼(あお)を縫う如く

白き腹見せ海鳥の舞う」

三宅島は、楽しいバードアイランドだった！

幸運？ ご利益？ 天罰？

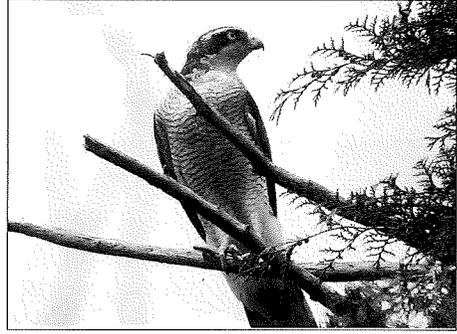
青木正俊（さいたま市）

三宅島探鳥会も終わったある日、山の神様が「少しは家のことを手伝って！ 家族をおいて1人で三宅島にいったんだからさー」

「はひ！ わかりました」

というわけで家にいることになった日のことでした。朝から家事の手伝いをしていましたが、妻が買い物に行った隙に、よし！ 今のうちだ、と近くの雑木林にスコープを抱え鳥見に行っちゃいました。

うろうろしていると、「チョットコイ、チョットコイ」とはじける綺麗な囀りが。「あっ、キビタキ4羽。やったー」。「ヒンカラララー、ヒンカラララー」「えっ？ コマドリ？」。スコープを小径に置いたまま藪の中を進むとコマドリが囀っているのではないですか。「やった



オオタカ(久保田忠資)

ね」。

間もなくコマドリは奥に行ってしまいました。「今日は凄いい。家の手伝いなんかどうでもいい！」と思っていると、小鳥の声が全くしなくなっていました。

「あれー？」と思いながら後ずさりしていると後ろから“ピーッ”とケタタマシイ声。ギョッ！ と振り返るとオオタカが私のスコープに乗ってこちらを睨んでいるではないですか。その距離約3～4メートル。

「ギエー、これが鷹の前に出た雀だよ。あれ？ 雉だっけ？」。

“ピーッ、ピーッ”

「ヒエー、ごめんなさい。あなた様の狩場とは知らなかったんですー。え～と、この場合は目をそらさずに下がるんだっけ？ それとも目をそらすんだっけ？」

分からなくなりとにかく嘴をみながらずるずると下がろうとすると、オオタカは身をかがめ、私をめがけバツと飛翔。「ギャー、襲われるー」ととっさに二枚目の顔？を隠し、しゃがみこみました。私のどれくらい上を飛んだかはわかりませんが、羽音や風を感じましたから1メートルは無かったと思います。放心状態がしばらく続きスコープを見るとしっかり鷹の爪跡がついていました。キビタキを見てからオオタカが去るまで10分程の出来事でした。

家に帰ると今度はオオタカではなく山の神様が睨んでいました。「ヒエー、山の神様が怖いー！」



野鳥情報

さいたま市緑区中野田 ◇3月15日、埼玉スタジアム南端の遊水池の中央付近にタシギの群れ、なんと45羽。4月4日、同池で、クサシギ10羽十、タシギ5羽十、コチドリ10羽十、ハクセキレイ5羽十、バン2羽(佐藤宏)。◇3月23日、埼玉スタジアム遊水地でクサシギ1羽、タシギ15羽、コチドリ10羽。3月27日、同所でクサシギ7羽、タシギ17羽、コチドリ13羽、ツバメ飛ぶ(鈴木紀雄)。

さいたま市岩槻区新方須賀 ◇3月27日、刈られたアシ原の灌木にとまるオオタカ若鳥1羽がにらみを効かせていた(鈴木紀雄)。

さいたま市岩槻区岩槻文化公園 ◇3月28日、ヒドリガモ約70羽の群れ、ヤマガラ、カケス、ベニマシコ♂1羽、ウソ♀4羽など冬鳥健在の中、ツバメが計7羽飛ぶ。ハイタカの飛翔。3月29日、ウソ、ベニマシコ、ヒガラ、ジョウビタキ、アカゲラ、ルリビタキ♀。尾のないカケスも無事に越冬したようだ。荒地から目線の高さに飛び移った小鳥、なんとカヤクグリだった。3月31日、まだベニマシコ、ヤマガラ、ジョウビタキ、シメ、ウソがいる。ここでは珍しいトビが、カラスにモビングされていた(鈴木紀雄)。



サギのコロニー(宇田川暉雄)

さいたま市岩槻区掛 ◇4月18日早朝、田んぼでムナグロ24羽、今季初認。4月21日早朝、ムナグロ40羽(本多己秀)。

さいたま市見沼区深作 ◇4月1日、遊水池でヨシガモ、キセキレイ。ヒレンジャク2羽、柳の新芽を食べていた。4月18日早朝、タカブシギ2羽、ツバメ、セッカ、ツグミ、オカヨシガモ、コガモ、カルガモ、ハシビロガモ、アオサギ、カワウ、カイツブリなど。4月19日、田んぼでタカブシギ2羽。4月20日、遊水池でオオジュリン10羽十、タシギ1羽、キジ♂1羽、アオジ(さえずりもよく聞こえた)、オカヨシガモ8羽、ヨシガモ1羽、コガモ、カルガモ、ハシビロガモ、カイツブリ、ツバメ、ツグミ、ヒバリ。4月21日、ウズラ1羽、アマサギ2羽、ダイサギ2羽、コサギ9羽、コガモ、カルガモ、ハシビロガモ、オオジュリン12羽、アオジ、セッカ、タシギ1羽、ジシギ類1羽、タカブシギ4羽、クサシギ1羽(本多己秀)。

さいたま市見沼区丸ヶ崎 ◇4月15日、綾瀬川でイソシギ2羽、コガモ10羽十、カルガモ10羽十、モズ2羽、ヒバリさえずる。カケス多し。オナガ、ハクセキレイ、ツバメ、ツグミ。汚れた川に大きな鯉が多数泳いでいた。4月19日、キジ♂1羽、アオサギ、セグロセキレイ。ハヤブサ1羽、7~8m位の低空を滑空してやってきた。翼長く、曲がり鋭い。下面白っぽかった。アシ原でオオジュリン3羽十(本多己秀)。

蓮田市黒浜東埼玉病院 ◇3月23日、オオタカ1羽、上空高く飛ぶ。更に別にもう1羽。ウグイスのさえずりが上手になった。カケス、ツグミ、コジュケイ6羽、シジュウカラ、ヤマガラ、アオジ、シロハラ、シメ、オナガ、モズなど。3月30日、アオジとカケスが多い。コガラ、ジョウビタキ。ウズラ1羽、笹藪の端にいた。ツバメ当地で今季初認。4月2日、アオゲラ「ピョー」と鳴き、姿も見られた。ホオジロ、キジ♂、コジュケイ、カシラダカ、カケス、ツバメ、ジョウビタキ♂、コゲラ、ウグイス。ヤマガラ5羽十にシジュウカラが混じっていた。オオタカ1羽、上空を旋回。4月21日、ヒ

ガラ、カケス、コゲラ、ツグミ、シジュウカラ、キジ♂1羽、シロハラ2羽(本多己秀)。

蓮田市黒浜 ◇3月27日、ベニマシコ3羽、アリスイ1羽が羽繕い。別のところでもアリスイの声、2羽いる? アカゲラの声、コチドリ2羽、タシギ1羽など。3月28日、アシ原でベニマシコ、桜の木でウソ3羽、用水路でクサシギ2羽、松林でビンズイ3羽。ツミ、ハヤブサ、オオタカが飛ぶ。3月31日、沼畔でクイナ1羽(鈴木紀雄)。◇4月18日早朝、田んぼでミヤマガラス24羽、全て成鳥。4月19日、ミヤマガラス3羽(本多己秀)。

蓮田市蓮田根ヶ谷戸公園 ◇4月9日、メジロのさえずり(本多己秀)。

蓮田市蓮田 ◇4月19日、チョウゲンボウ1羽、当地では久しぶり(本多己秀)。

春日部市内牧 ◇3月27日、上空をツバメ飛ぶ(鈴木紀雄)。

上尾市藤波かおる幼稚園 ◇4月11日午前7時10分、ヒヨドリの渡り、妻とウォーキング中、上空を低空でおしゃべりしながら南東から北西へ40羽+。その後午前7時25分と7時45分に各20羽+が同じ方角へ渡って行った(立岩恒久)。

上尾市三ツ又沼ピオトープ ◇4月14日、上尾市・川島町・川越市の境にある三ツ又沼ピオトープで、まだいるクイナが、やって来たヒクイナを追っ払っていた(鈴木昇)。

上尾市中分 ◇4月14日午前7時50分、大宮ゴルフコースの森にてセンダイムシクイ。いつものウォーキングコースの途中、やっと出始めたクヌギの新芽の頂上で「チオチオビー」と3回さえずった。例年より早いみたい。渡りの途中でしょう。その近くではヤマガラが「ズーズーピン」と。メジロは忙しいさえずりをしてた(立岩恒久)。

桶川市下日出谷 ◇4月26日午前6時50分、エゾムシクイ、毎朝のウォーキング途中の小さな林で「ヒーツーキー」のさえずりを聞く(立岩恒久)。

桶川市若宮 ◇4月29日午前7時10分、ヒヨドリの渡り、30羽+渡る(立岩恒久)。

北本市石戸宿 ◇4月26日午後1時20分、オオヨシキリ初認、アシ原にて「ギョギョシー」のさえずりを聞く(立岩恒久)。

川口市西新井宿(森林) ◇4月28日、キビタキ♂1羽、きれいな声でさえずっていた。新緑によく映える鳥だが、さえずらなかつたらおそらく見つからなかつただろう。クロジ♂1羽。キビタキと違い灰黒色で地味な印象だが、これはこれで美しい色合いだ。コムクドリ8羽。秋の渡りの頃になると良く見られるが、春の渡りでは初めて見た。♀が多い群れだった。オオヨシキリ1羽、珍しい鳥ではないが、アシ原が全くないこのフィールドではきわめて異例。渡りの途中なのだろう。4月29日、アカハラ1羽。もうすぐいなくなるだろうから、これで今シーズンの見納めか(須崎聡)。

狭山市入間川 ◇3月23日、広瀬橋付近でシマアジ♂1羽(小牧敏行)。

川越市川越運動公園 ◇3月24日、ツバメ1羽(森本國夫)。

川越市上寺山 ◇4月14日、部分白化のハシボソガラス1羽。この個体は、農家の畑で生ごみを食べていることが多いとのこと。観察は、午後12時15分頃から15分程度でしたが、全身黒い普通のカラスと行動していました(竹ノ谷房代)。

深谷市本田 ◇3月31日、荒川白鳥飛来地上流部右岸でツメナガセキレイ(亜種シベリアツメナガセキレイ)1羽。翌日以降は主に左岸付近で確認。4月8日、大麻生探鳥会終了後には多くの人が観察。4月14日、下流部で確認(鈴木敬)。

皆野町美の山公園 ◇4月13日、舞い上がったクマタカ、やって来たセンダイムシクイ(鈴木昇)。

表紙の写真 チドリ目セイタカシギ科セイタカシギ属セイタカシギ

今年5月29日谷津干潟で撮影。孵化当日のスcoopショットでしょうか。もしかしたら、センターが休日だった前日に孵化したのかも。 **松村禎夫(さいたま市)**



行事案内



ダイゼン(蟹瀬武男)

「要予約」と記載してあるもの以外、予約申し込みの必要はありません。初めての方も、青い腕章した担当者に遠慮なく声をおかけください。私たちもあなたを探していますので、ご心配なく。

参加費：一般 100 円、会員と中学生以下 50 円。持ち物：筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、持っていれば双眼鏡などの観察用具も(なくても大丈夫)。解散時刻：特に記載のない場合正午から午後 1 時ごろ。悪天候の場合は中止、小雨決行です。

できるだけ電車バスなどの公共交通機関を使って、集合場所までお出かけください

北本市・石戸宿定例探鳥会

期日：8月5日(日)

集合：午前9時、北本自然観察公園駐車場。

交通：JR高崎線北本駅西口アイメガネ前から北里メディカルセンター病院行きバス 8:31 発で「自然観察公園前」下車。

担当：浅見、岡安、大坂、内藤、島田、立岩、永野(安)、永野(京)、山野、長谷川

見どころ：正直言ってこの時季、鳥は少ないです。でも、ここ北本は自然がいっぱい。野草好き、昆虫好きには絶好のフィールドです。木陰を縫って公園を散策しますが、暑さ対策は忘れずに！スズメバチは黒い色に攻撃的になりますので、できるだけ白っぽい帽子や服装でお出かけください。真夏の太陽の下、オオヨシキリの鳴く姿をじっくりと観察するのも一興かと……。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：8月12日(日)

集合：午前9時30分、秩父鉄道大麻生駅前。

交通：秩父鉄道熊谷 9:09 発、または寄居 8:49 発に乗車。

担当：中里、森本、和田、大澤、倉崎、高橋(ふ)、後藤、藤田(裕)、栗原、飛田、新井(巖)、千島、鶴飼

見どころ：8月の大麻生はここ数年毎年の

ように参加者が増えています。健康で我慢強い一級のバードウォッチャーたちです。葉陰でひっそりと羽を休めている換羽中の鳥や、渡り途中のシギ・チドリ類を探してみましょ。木陰に涼風を求めて、土手を歩きます。

『しらこぼと』袋づめの会

とき：8月18日(土)午後3時～4時ころ

会場：支部事務局 108 号室

道順：浦和駅西口から県庁通りを少し進み、三菱UFJ信託銀行角を左折、旭通り商店街を抜けて高層ビル角の信号を直進、次の変形三つ又真ん中の道を進んだ右側、5階建ての建物(プリムローズ岸町)。

ご案内：暑さ真っ盛りですね。その中をお出かけの袋づめ、ご苦労様です。今月もよろしくお願ひします。

さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：8月19日(日)

集合：午前8時15分、京浜東北線北浦和駅東口。集合後バスで現地へ。または午前9時、さいたま市立浦和博物館前。

後援：さいたま市立浦和博物館

担当：楠見、福井、倉林、渡辺(周)、若林、小菅、赤堀、新部、青木、増田、宇野澤、須崎

見どころ：今年も夏の日差しはきつそうで

すが、8月半ばを過ぎると朝晩の風は涼しくなります。見沼田んぼのあちこちに、そんな季節の風景を探して歩きたいと思います。稲は大きく育ち、ナシの実が実っています。夏の間でかけた旅先で出会った鳥や、久しぶりのふるさとのみやげ話などを語る探鳥会に、どうぞお出かけください。

千葉県・ふなばし三番瀬海浜公園探鳥会

期日：8月19日（日）

集合：午前9時30分、JR 総武線船橋駅改札口付近。集合後、京成バス9:40 発船橋海浜公園行きに乗車、終点下車。

交通：JR 武蔵野線南浦和8:30→西船橋で総武線乗り換え。

担当：佐久間、菱沼(一)、玉井、齋藤、高橋(優)

見どころ：日本有数の渡り鳥の休憩地、三番瀬では秋の渡りが始まっています。シギやチドリ、アジサシ、コアジサシをはじめ毎年いろいろな鳥が観察されてきています。今年もどんな鳥たちが訪れるか楽しみにしています。

ここは日差しをさえぎる物がありません。暑さ対策の帽子や飲み物など、しっかり用意してお出かけください。

千葉県習志野市・谷津干潟探鳥会

期日：8月26日（日）

集合：午前9時40分、JR 武蔵野線南船橋駅改札口付近。

交通：JR 武蔵野線武蔵浦和8:35→南浦和8:38→南船橋9:29着

担当：杉本、菱沼(一)、手塚、長谷部、伊藤(芳)、浅見、野村(修)

見どころ：子育てが終わり、冬羽になって南へ渡るシギ・チドリが主役です。幼鳥たちも見られ、珍しい種類が出現するかも。干潟がおもしろい季節です。

多少日陰はありますが、油断は大敵。鳥たちの秋の渡りが始まっても、太陽はまだ夏の勢いです。負けないようにご用心！

リーダー研修会（要予約）

期日：9月2日（日）

※詳細は先月号をご覧ください。

今年も親子探鳥会

楠見邦博(さいたま市)

6月9日(土)さいたま市立浦和博物館と三室公民館共催の親子探鳥会が見沼田んぼ周辺で開催され、楠見邦博、倉林宗太郎、新部泰治、赤堀尚義が「鳥が歌う、見沼たんぼはいいところ」をテーマにして、23人の参加者を指導しました。

朝の挨拶では事前に出現する鳥を紙芝居で説明するなど工夫をこらし、子供たちの興味を盛り上げました。

歩き始めてすぐに見られたカワセミに目を輝かせ、カッコウの鳴き声に歓声を上げていました。出現した鳥は18種でしたが、心配された雨も降らず、田んぼの風を受けた楽しい探鳥会になりました。

「高原モズ」ってご存知ですか？

海老原美夫(さいたま市)

図鑑には載っていません。種としてはモズ科モズ(*Lanius bucephalus bucephalus*)、亜種レベルでも普通のモズと同じです。

モズ♂は夏羽になると、羽縁の擦り切れと褪色で茶色味が薄く灰色味が強くなりますが、中でもより灰色味が強く、オオモズと間違えられそうな色になるモズがいて、「高原モズ」タイプと呼ばれています。夏の間平地で一度繁殖を終えた個体が高原に移動し、再度繁殖する時に灰色味が増すことから「高原モズ」という名前がついたという話もありますが、平地でも見かけることがあります。



(7月1日さいたま市で撮影)

オオモズの腰は白いが、高原モズは白くないなどの識別点があります。



行事報告

1月13日(日) 松伏町 緑の丘公園

参加：26名 天気：晴

カイツブリ カワウ ダイサギ アオサギ カルガモ コガモ ハシビロガモ チョウゲンボウ オオバン イソシギ ユリカモメ セグロカモメ シラコバト キジバト ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ アカハラ ツグミ シジュウカラ メジロ ホオジロ ホオアカ カシラダカ アオジ オオジュリン カワラヒワ ベニマシコ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (37種) 緑の丘公園は管理棟と南駐車場が出来上がり3月中に一部オープンすることになった。そのため、これまでのコースでは池に近づくことができず、造成地の中を進んだ。見晴らしが悪く、カモ類はよく見られなかったが、ホオアカやカシラダカなどの冬の草原の小鳥が多く楽しめた。参加者からは造成地のままにしてほしいとの声まで飛びだした。(橋口長和)

1月27~28日(土~日) 茨城県 平潟温泉

参加：29名 天気：晴

カイツブリ ハジロカイツブリ カンムリカイツブリ カワウ ウミウ ヒメウ ダイサギ コサギ クロサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ オカヨシガモ ヒドリガモ ホシハジロ キンクロハジロ スズガモ クロガモ ビロードキンクロ シノリガモ ホシハジロ ミコアイサ ウミアイサ カワアイサ ミサゴ トビ ノスリ ハヤブサ チョウゲンボウ キジ オオバン ミユビシギ ユリカモメ セグロカモメ オオセグロカモメ ワシカモメ シロカモメ ウミネコ ミツユビカモメ マダラウミスズメ キジバト カワセミ ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ イソヒヨドリ シロハラ ツグミ ウグイス エナガ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ オオジュリン カワラヒワ ベニマシコ ウソシメ スズメ ムクドリ カケス ハシブトガラ

ス ハシボソガラス (69種) 温泉探鳥会第2弾。大宮を出発し、まずは涸沼をめざした。涸沼ではカモの中にハジロカイツブリの大群を見ながら49種と幸先のよいスタート。大竹海岸で昼食後、大洗海岸、平磯と巡り、茨城最北の平潟温泉に到着した。翌朝は平潟港を散策し、朝市でおみやげもゲット。朝食後、福島に入り勿来の関公園から沼の内漁港を始めとした漁港をたどりながらゆっくり楽しんだ。小名浜港で昼食後、お天気にも恵まれた常磐路を後にした。(橋口長和)

2月11日(日) 熊谷市 大麻生

参加：51名 天気：晴

カワウ ダイサギ アオサギ コハクチョウ カルガモ コガモ トビ オオタカ ノスリ キジ オオバン キジバト カワセミ アカゲラ コゲラ ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ミソサザイ ジョウビタキ アカハラ シロハラ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ アトリ カワラヒワ ベニマシコ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (39種) 強い風が吹いていたので、アシ原と林の中を通るコースを取った。スタートするとすぐモズ、ホオジロが出迎えてくれた。シジュウカラは早々とさえずりが聞こえた。アシ原に出るとノスリが舞っていた。悠々と気持ちよさそうだ。途中、小川に沿ってコースを取る。突然足元からミソサザイが飛び立ち、幸運な数人が楽しめた。河原に出ると早速カワセミが登場。コバルトブルーの背中が輝いている。相変わらずの人気だ。ベニマシコが随所で見られ、皆が楽しめた。(中里裕一)

2月12日(月、休) さいたま市 大宮市民の森

参加：115名 天気：晴

カイツブリ カワウ コサギ カルガモ コガモ オナガガモ ホシハジロ クイナ バン オオバン タシギ セグロカモメ キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ シロハラ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ オオジュリン カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ オナガ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (39種) 穏やかな天気となった。開始前からヒバ

りの囀りが聞こえていた。参加者が多く2グループに分けて開始する。市民の森では、シジュウカラが気持ち良く囀っていて季節の変化を感じた。芝川では、常連のカワセミや期待のクイナ、オオジュリンが出現し、その場を盛り上げた。カモたちは、下流に移動したようで種数、個体数とも少なかった。参加者が多かったが、無事終了してリーダー一同ほっとした。(工藤洋三)

2月15日(木) 戸田市 彩湖
参加：41名 天気：快晴

カイツブリ カンムリカイツブリ カワウ ダイサギ コサギ マガモ カルガモ コガモ ヨシガモ ホシハジロ キンクロハジロ ミコアイサ オオバン セグロカモメ キジバト カワセミ ヒバリ ハクセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ヒレンジャク アカハラ シロハラ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (36種) 湖に出てすぐヨシガモ、ホシハジロ。それにしても鳥は少ない。釣堀わきで小休止。ヤドリギがあるので見に行くと、居ましたヒレンジャク1羽。ここの探鳥会では初めてだ。みんなでゆっくりと見て、また湖畔へ。終わり近くにタヒバリとヒバリを見た。(倉林宗太郎)

2月17日(土) 滑川町 武蔵丘陵森林公園
参加：54名 天気：晴

カイツブリ カワウ アオサギ マガモ カルガモ コガモ ヨシガモ オカヨシガモ ヒドリガモ ハシビロガモ オオタカ バン オオバン キジバト アカゲラ コゲラ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ ツグミ ウグイス エナガ ヒガラ ヤマガラ シジュウカラ ゴジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ ベニマシコ ウソ スズメ ハシボソガラス ハシブトガラス (35種) 風がなく、穏やかな日和。暖冬のためか鳥は少なかったが、ゴジュウカラ、ベニマシコなどが出て、何とか盛り上がった。(喜多峻次)

2月17日(土) 『しらこぼと』袋づめの会
ボランティア：7名

新井浩、池田泰右、海老原教子、大坂幸男、尾崎甲四郎、千野安以、藤掛保司

2月18日(日) 本庄市 坂東大橋
雨のため中止。

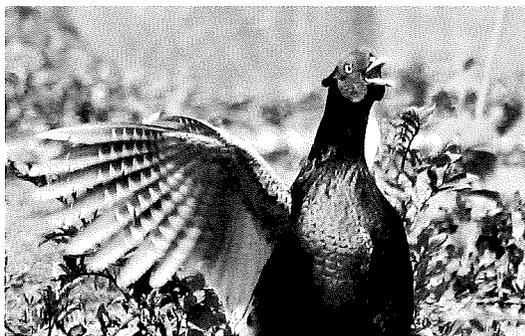
2月18日(日) さいたま市 三室地区
雨のため中止。

2月24日(土) 東松山市 物見山
参加：32名 天気：晴

ハイタカ ノスリ キジバト コゲラ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス エナガ カワラヒワ メジロ ホオジロ カシラダカ ミヤマホオジロ アオジ ベニマシコ ウソ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (22種) エナガ1羽しか出ない市民の森。強風のためか。谷地田ではどうか。先ずベニマシコ、次にミヤマ君オスを参加者全員で観察。空にはノスリ、ハイタカが舞う。物見山ではウソが出た。(島田恵司)

2月24日(土) 上尾市 丸山公園
参加：20名 天気：快晴

カイツブリ カワウ コサギ? アオサギ マガモ カルガモ オナガガモ オオタカ ノスリ キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ アカハラ ツグミ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ アトリ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (32種) 強風で出現鳥は期待薄と思っていたら、カワセミの池でしばらく振りに主に会えたのでラッキー。カシラダカの群れを見て土手に上がると、これまた真白き富士とオオタカの飛翔が見られ満足この上もなし。お陰で台風なみの強風の寒さも吹き飛んだ。(大坂幸男)



キジ(落合英二)

連絡帳

●シロハラクイナ2年連続繁殖・草取り体験作業中止

本誌5月号でもお伝えしたさいたま市桜区塚本のシロハラクイナは、6月28日(木)朝、雛4羽が観察され、今年も繁殖したことが確認されました。

実は、7月1日(日)には米作り体験の草取り作業が予定されていたのですが、今年のシロハラクイナは昨年より体験田に近い所で営巣しており、孵化がその日に近い時期になる見通しでしたので、相談の上、中止にしていました。10数人が体験田に入ることなく、少人数に短時間で草取りをしていただいた方が、シロハラクイナに与える影響が少なくすむだろうという判断でした。

その7月1日、シロハラクイナ親1羽と雛4羽は朝7時頃に巣のあるアシ原から体験田に移動し、午後4時半過ぎには、逆に体験田からアシ原に戻るのが観察されました。

草取り体験を中止したことでこの日は、シロハラクイナ親子が体験田の中でのんびり過ごせたようです。



7月1日、アシ原に戻る親子(海老原美夫)

●「正午」は「午前12時」です

探鳥会解散時の「12時」は「午前12時」でしょうか、「午後12時」でしょうか。役員会で話題になりました。

独立行政法人情報通信研究機構 周波数標

準課によれば、明治5年に出された太政官布告三百三十七号で、「正午」は「午前12時」であり、それを1秒でも過ぎれば午後になると決められているとのことです。明治5年の太政官布告!! これは守らなければなりません。今後探鳥会解散時の表記に留意します。おまけですが、夜中の12時のことを「正子(しょうね)」と呼ぶことはご存知でしたか。こちらは「午前0時」、「午後12時」、どちらでも良いように解釈できるとのことです。

●事務局の予定

- 8月4日(土) 編集部・普及部・研究会会議
- 8月11日(土) 9月号校正(午後4時から)
- 8月18日(土) 袋づめの会(午後3時から)
- 8月19日(日) 役員会(午後4時から)

●会員数は

7月1日現在 2,251 人です。

活動報告

- 6月9日(土) 7月号校正(海老原美夫・大坂幸男・藤掛保司)。
- 6月17日(日) 役員会(司会：浅見徹、総会準備・9～12月行事予定・その他)。
- 6月18日(月)「支部報だけの会員」に向けて7月号を発送(倉林宗太郎)。
- 6月22日(金)さいたま市みどり推進課主催、第2回見沼田圃ホームページ開設準備会に出席(楠見邦博)。

編集後記

「ああ、カッコウが鳴いている」。今朝もカッコウの声で目が覚めた。鳥の鳴き声ではカッコウが一番好きだ。実に清々しい。聞いた瞬間に、幼かった頃からのいろいろな思い出が一度に押し寄せてくる。不思議に思い出までもが清々しい。ここ三郷市北部では毎年通過だけだが、今年は5月下旬から聞こえてきており、うれしい限りだ(山部)。

しらこぼと 2007年8月号(第280号) 定価200円(会員の購読料は会費に含まれます)

発行人 藤掛保司 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 郵便振替 00190-3-121130

〒330-0064 さいたま市浦和区岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号

TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460 <http://35.tok2.com/wbsjsaitama/>

編集部への原稿 yamabezuku@hotmail.com 野鳥情報 toridayori@hotmail.com

住所変更退会などの連絡先は 〒151-0061 渋谷区初台1-47-1 小田急西新宿ビル1階

(財)日本野鳥の会 会員室会員グループ TEL 03-5358-3511 FAX 03-5358-3608

本誌掲載記事はホームページに転載される事があります。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。再生コート紙使用。印刷 関東図書株式会社